

紙ふうせん

KAMIFUSEN No.79

成田市立図書館だより 第79号 2015年（平成27年）3月31日発行

編集 成田市立図書館 〒286-0017 千葉県成田市赤坂1-1-3 ☎ 0476-27-4646(自動応答)

0476-27-2000(直通)

<http://www.library.city.narita.lg.jp> FAX 0476-27-4641

2014年12月21日（日）に、クリスマスイベントを開催しました。

参加した子どもたちは、絵本の読み聞かせを聞いた後、オーナメント作りに取り組みました。



（紙面紹介）

- ・ 図書館文学講座 「人間らしくヘンテコでいい～命・生きがい・絆・本を考える～」
講師：医師・作家 鎌田 實氏
- ・ 図書館市史講座 「門前町に生きる～過去・現在・未来～」
講師：慶應義塾大学文学部教授 鈴木 正崇氏
千葉商科大学非常勤講師 久保田 滋子氏
- ・ 開館30周年記念行事（クリスマスイベント・豆本づくり講座）

平成26年度 文学講座 2014.9.13 (土)

「人間らしくヘンテコでいい～命・生きがい・絆・本を考える～」

講師：医師・作家 鎌田 實氏



満員の聴衆に笑顔で語る鎌田 實氏

今年度の文学講座は、医師であり作家としても活躍されている鎌田實さんを講師に迎え、「人間らしくヘンテコでいい」と題して講演をしていただきました。鎌田さんは東京医科歯科大学を卒業後、長野県の病院へ赴任して「健康づくり運動」を実践し、脳卒中死亡率の高かった長野県を長寿日本一の地域にすることに成功。その一方で、チェルノブイリやイラク、東日本大震災などの支援にも、国内外を問わず積極的に取り組んでいます。

講演では、医師を志した少年時代から、支援活動を通じて交流した人々のお話まで、幅広い内容を鎌田さんご自身の読書体験を交えつつ語っていただきました。

幼い頃から、貧しい家庭で育ったという鎌田さん。好奇心を満たすために、学校の図書室の本を片っ端から読むような子どもだったといいます。特に図書館で読んだ『クローニン全集』や『どくとのマンボウ航海記』は、鎌田さんが医師を志すきっかけになりました。転機が訪れたのは高校3年生の時。弱い人や困っている人たちの力になりたい、本で読んだ世界を自分の目で見たいという思いに突き動かされ、大学に行って勉強したいと父親に頼み込みます。紆余曲折の末に父親から、「弱い人や貧乏な人を忘れなければ自由に生きる」という言葉をもらい、これが現在の生き方をする上で背中を押してくれた出来事であり、親からの最大のプレゼントだったという一言が印象に残りました。

発売日が間近に迫っていた著書『1%の力』にも触れ、よく笑う人や希望を持っている人、そしてボランティアなどの利他的な行動を取る人の方が健康で長生きをすることが医学的に証明されており、皆がそれぞれ1%でも誰かのために生きることができれば、世の中を良い方向に変えることができるのではないかと語られました。

また、「自分自身がヘンテコだっていうのはよくわかっている」と話す鎌田さんは、ヘンテコな人々がいたからこそ世界をリードする発明や発見が生み出されたのだから、今の人たちはもっとヘンテコで自由になっていいのだと語り、講座に参加した皆さんは大いに元気と勇気をもらいました。

講演の最後には、「本の中には宝がいっぱい詰まっている。もう一回心を新たに、好きな本を図書館で借りてみてください」という言葉で結ばれました。



鈴木 正崇氏



久保田 滋子氏

市史講座 2014.11.30 (日)

『門前町に生きる—過去・現在・未来—』

講師 鈴木 正崇氏 (慶應義塾大学文学部教授)
久保田 滋子氏 (千葉商科大学非常勤講師)

平成26年度の市史講座は、成田市市制施行60周年記念・成田山門前町歴史講演会として開催されました。市役所6階の大会議室において、成田山門前町調査研究事業の中間報告も兼ねて実施をいたしました。

成田市は、江戸時代以降、成田山新勝寺の門前町として栄え、毎年多くの参拝客で賑わっています。その姿は、鉄道の開通・成田空港の開港など、時代の変化にあわせて大きく変貌しています。

『成田市史』第1次編さん事業の終了後四半世紀以上が経過しましたが、その中心となる門前町の歩みや移り変わりをまとめた記録がありません。そこで、これまでの資料を最大限に活用しながら、成田山門前町の歩みや移り変わり、地域に伝わる様々な行事・生活文化等を後世に伝え遺すことを目的として、平成24年度から「成田山門前町調査研究事業」を実施しています。

調査は、慶應義塾大学鈴木正崇教授の研究室を中心としたプロジェクトチームが、門前町に暮らす方々に、伝承された年中行事・暮らし・習慣・信仰・芸能・儀礼など様々な事項について詳細な聞き取り調査を行っています。

講演は、門前町の昔のこと、現在の様子、そして未来…について、最初に「成田山門前町調査研究事業」のプロジェクト・リーダーである鈴木先生から配布資料をもとに、成田との出会い、調査の趣旨・目的、調査の経過、門前町の範囲・性格、祇園祭から見えてくるもの、講をはじめとする民間信仰などについてお話ししていただきました。

続く久保田先生は、地元成田出身で現在成田にお住まいということもあり、調査チームと門前町の方々との橋渡しの役割を果たされています。先生からは、調査に関わるようになった経緯、門前の風景・旅館について（旅館の日常生活やお客さんの様子など）や女人講・オビシャについて昔の写真・現在の写真などを見ながらお話ししていただきました。

当日は、164名の方々にご参加をいただき、講演会終了後に寄せられたアンケートは回答率8割を数えました。参加者の様々な感想・意見からは関心の高さ・興味の深さがうかがわれ、大変有意義な講演会となりました。

成田市立図書館 クリスマスイベント 2014.12.21(日)

講師 成田市レクリエーション協会 新井 明美氏

切って、貼って、書いて…オーナメントを手作り!

図書館開館30周年の記念行事としてクリスマスイベントを開催しました。

参加した子ども達はクリスマスの絵本の世界を楽しんだり、クリスマスオーナメント作りをしたりしました。

オーナメント作りでは3種類のオーナメントを作成。円形のオーナメントにはシールやスパンコールを貼ってアレンジをしたり、絵本の形をしたオーナメントには自分で考えた物語や将来の夢を書いたり、みなさん自由な発想で思い思いのオーナメントを作りました。

イベントの最後にはサプライズでサンタさんが登場。大興奮の子ども達にクリスマスプレゼントを贈りました。



上手にできました!



プレゼントはなんだろう?



親子でのり付けに挑戦



完成はもう間近

成田市立図書館 豆本づくり講座 2015.1.18(日)

講師 図書館・メディア研究所代表 小畑 信夫氏

子どもも大人も夢中!

豆本づくり

開館30周年記念の最後のイベントとして、小学生以上を対象とした豆本づくり講座を開催しました。定員を上回る申込みがあり、先着順で25名の方にご参加いただきました。

今回の講座では「自宅にあるもの、簡単に入手できるもので豆本をつくる」を基本にご指導いただき、専門の器具や材料に代わってアイロン、ホットプレート、ガーゼ等を使用しました。位置がずれないようにのり付けをしたり、ブックコートという透明フィルムを貼ったりする作業には苦戦しつつも夢中になって取り組み、それぞれ自分だけの豆本を作成することができました。

編集後記

図書館本館前の通りには見事なけやき並木が続き、季節ごとに私たちの目を楽しませてくれます。玄関前の数本はとりわけ幹が太く、古木の風情を感じさせます。ところが、30年前の図書館前景写真には、意外なほど小ぶりなけやきの姿があります。開館31年目を迎え図書館はこの木々の生長とともに歩みを進めていきたいと思ひます。

成田市立図書館だより No. 79
発行 成田市
編集 成田市立図書館
〒286-0017 千葉県成田市赤坂1-1-3
☎0476-27-2000
発行日 2015.3.31
登録番号 成教図14-056

